

ねん がつ にち
2021年1月30日

ねんかんたい しゅじつ
年間第4主日

きくち いさおだい しきょう
菊地 功大司教 メッセージ

インターネットが普及した現代社会で、わたしたちはあふれかえる言葉の中で生きています。感染症対策のために直接出会う機会が減少しているとは言え、インターネットで直接語り合うにしても、文字でコミュニケーションを図るにしても、多種多様な手段を提供しています。

毎日浪費されるようにあふれかえる言葉には、心の叫びの言葉もあれば、何気なく発信される薄っぺらな言葉もあります。真実を語る言葉もあれば、でたらめな言葉もあります。いのちを生かす言葉もあれば、いのちを奪う言葉もあります。希望を生み出す言葉もあれば、闇に引きずり込む言葉もあります。言葉は、それが前向きであろうと後ろ向きであろうと、ひとたび発信されてしまうと、他者に対してなんらかの影響を及ぼす力を秘めています。

2018年の世界広報の日メッセージでしたが、教皇フランシスコはフェイクニュースのもたらす影響について指摘をされました。その中で、「フェイクニュースは、不寛容で過敏な姿勢の表れであり、それによって広まるのは傲慢さと憎しみだけです。これこそが嘘が最終的に行き着く先です」と述べ、さまざまな局面で顔を覗かせるフェイクニュースの危険性に警鐘を鳴らされました。

わたしたちが社会全体に対して広く自由に発信をする手段を持たなかったかつての時代にあっても、いわゆる「うわさ話」が社会生活に大きな影響を及ぼしたり、命に関わる結果を生み出した事例がありました。今や誰でもいつでも、世界中に対して自らの言葉を発信できる時代となり、時に、何気なく発信した言葉ですら、後ろ向きな結果を生み出すこともあり得ます。

わたしたちが発する言葉には、わたしたち自身の存在がその背後に隠されています。わたしたちが発する言葉は、わたしたちの存在そのものの反映です。わたしたちが発する

ことば
言葉は、わたしたちの心^{こころ}を写す鏡^{かがみ}です。

きょうこう おな
教皇は同じメッセージで、フェイクニュースは、「ソーシャル・メディアの特徴^{とくちょう}である分
かち合いの精神^{せいしん}のためではなく、人間^{にんげん}の心^{こころ}にいと簡単に^{かんたん}わき上がる、飽く^あことを知ら
ない欲望^{よくぼう}に訴えかけ^{うった}……。その渴^{かわ}きは結局^{けつぎよく}、わたしたちを欺^{あざむ}きという何^{なに}よりも悲惨^{ひさん}
なもの、すなわち心^{こころ}の自由^{じゆう}を盗^{ぬす}み取るために嘘^{うそ}から嘘^{うそ}へと渡^{わた}り歩^{ある}く悪魔^{あくま}のわざの犠牲者^{ぎせいしゃ}
にします」と述べています

イエスの言葉^{ことば}には力^{ちから}がありました。それはイエスこそが、「真理^{しんり}」だからであります。
だから人々は「権威^{けんい}ある新^{あた}しい教^{おし}え」とイエスの言葉^{ことば}を評^{ひょう}したのです。申命記^{しんめいき}は、神^{かみ}
の命^{めい}じていない言葉^{ことば}を語る預言者^{よげんしゃ}は死^しに値^{あた}すると、モーセに語^{かた}らせませす。真理^{しんり}を身^みに帯^お
びていない者^{もの}の言葉^{ことば}だからです。

わたしたちも力^{ちから}ある言葉^{ことば}を語^{かた}りたいと思います。自分勝手^{おも}な思^しいや欲望^{よくぼう}を満^みたす言葉^{ことば}
ではなく、いのちを奪^{うば}う言葉^{ことば}ではなく、闇^{やみ}をもたらず言葉^{ことば}ではなく、裁^{さば}き排除^{はいじよ}する言葉^{ことば}
ではなく、それよりも神^{かみ}の真理^{しんり}に基^{もと}づいた言葉^{ことば}、いのちを生^いかす言葉^{ことば}、希望^{きぼう}を生^うみ出す言葉^{ことば}、
慈^{いつく}しみに満^みちあふれた言葉^{ことば}、いたわり支^{ささ}え合う言葉^{ことば}、すなわち神^{かみ}の力^{ちから}に満^みちた言葉^{ことば}を語^{かた}
りたいと思います。

がつ さいしゅうしゅじつ
1月の最終^せ主^{かい}日は、「世界^{たす}こども助け^あ合いの日^{にち}」と定め^{さだ}られています。「子どもたちが使^し
徒^と職^{しよく}に目^め覚^ざめ、思^{おも}いやりのある人間^{にんげん}に成^{せい}長^{ちやう}することを願^{ねが}って制^{せい}定^{てい}」され、「子どもたち
が自分たちの幸^{じぶん}せ^{しあわ}だけでなく世界中^せの子^{かい}どもたちの幸^{しあわ}せを願^{ねが}い、そのために祈^{いの}り、犠^ぎ牲^{せい}
や献^{けん}金^{きん}を」ささげる日^{にち}となっています。あふれる言葉^{ことば}の洪水^{こうずい}の中^{なか}で生^いきている子どもた
ちが、神^{かみ}の真理^{しんり}に裏^{うら}づけされた言葉^{ことば}に触^ふれ、その言葉^{ことば}を心^{こころ}に刻^{きざ}み、語^{かた}り、実^{じつ}行^{こう}してい
ますように。子どもたちを育^{はぐく}む大人^{おとな}が、神^{かみ}の力^{ちから}に満^みちた言葉^{ことば}を語^{かた}り行^{おこな}うことが出来^{でき}
ますように。